

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

東広島市立高美が丘小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	78	78	77	72	68	98	471	18	489
学級数	3	3	3	3	2	3	17	3	20

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	専科	A	A	推進	専科	A	A	A	A	A	A	専科
5年2組 (担任：B)	B	専科	B	B	推進	専科	B	B	推進	B	B	B	専科

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：C)	C	専科	C	C	C	専科	C	C	推進	C	C	C	専科
6年2組 (担任：D)	D	専科	D	D	推進	専科	D	D	推進	D	D	D	専科
6年3組 (担任：E)	E	専科	E	E	推進	専科	E	E	E	E	E	E	専科

## 4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

### <効果のあった取組>

#### ① 【授業の質の向上】

児童が「知りたい、やってみたい」と思えるような単元全体の構成を考えたり、授業展開を工夫したりした。

#### ② 【多面的な児童理解】

関係教員と週案作成時にミーティングを行い、情報共有を行った。

#### ③ 【小・中学校の円滑な接続】

日頃から多くの教員が授業を担当し、中学校での教科担任制のイメージをもたせた。

#### ④ 【教師の負担軽減】

担任一人当たり週に3～5時間の授業を推進教員が担当し、その時間を担任の空き時間とした。



### <成果>

#### ① 【授業の質の向上】

- ・担当教科が限定されていることにより、教材研究をより深く行うことができ、教科の特性について理解を深めることができた。
- ・理科においては、事前の実験準備を適切に行うことができ、一人一人が実験・体験をもとに学習することにつながった(図1)。
- ・授業に必要な備品等の確認を定期的に行う等、学習環境を整備することができた。



図1 友達と手順を確認しながら、実験を行う児童

#### ② 【多面的な児童理解】

- ・週一回の学年会で、担当クラスの様子で気になったことや授業での様子等について共有することで組織的な指導を行うことができた。
- ・授業で用いたワークシートを介して、児童のがんばりを認めるコメントを担任に伝えることで、児童の自己肯定感を高めることにつながった(図2)。

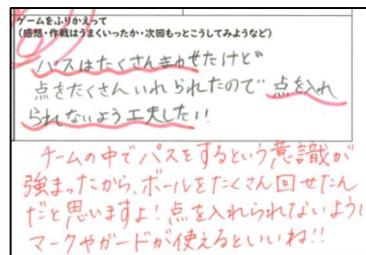


図2 体育科のワークシート

#### ③ 【小・中学校の円滑な接続】

- ・教科担任制推進教員以外の専科授業も含め、様々な教員による授業を受けることで、中学校進学後のイメージをもたせることができた。
- ・児童は先生によってやり方が違うことを受け入れ、教科担任制に対する抵抗感を軽減することができた。

#### ④ 【教師の負担軽減】

担任の空き時間の確保につながり、校務や学級運営に関する事項に時間を割くことができ、心身の健康の維持にもつながった。

## <課題>

### ① 【授業の質の向上】

- ・時間割の都合上、授業準備が追い付かないことがあった。校内全体の授業の質の向上に還元できなかった。
- ・理科と体育というどちらも事前に準備時間に時間を費やす教科でありながら、特別教室や体育館の優先利用の都合上、5分休憩を挟んで慌ただしく授業を始めることになってしまったり、後片付けもほどほどに次の授業へと向かわなければならなかったりした。
- ・自身の教科に対する理解は深まったと感じているが、自身の学びを学校全体に広げていく機会をもつことができなかった。

### ② 【多面的な児童理解】

一小一中という地域性を生かして、中学校の学びを意識した授業づくりには至らなかった。

### ⑤ 【その他】

理科において、他の学級との連携不足により、授業時間が重なってしまったときに実験器具が不足していたために、予定変更を余儀なくされることがあった。



## <対策>

### ① 【授業の質の向上】

- ・年度初めに学級担任と時間割を十分に検討し、児童も教員も時間にゆとりをもてるような時間割を編成していくとよい。
- ・小学校における4年間の理科学習の系統性を踏まえた授業を実施できるよう、中学年理科を担当している教員と児童のつまずきの状況等について共通理解を図る。
- ・体育科は、低学年のうちに動きの基礎や基本的な体力を身に付けておかなければ、学年を重ねたときに体育や運動に苦手意識をもってしまうため、運動を楽しめる児童を育成できるよう、日々の体力づくりの内容を提案したり、行事や季節に合わせて体育や運動に関する掲示を作成したりするなどの取り組みを行う（図3・図4）。

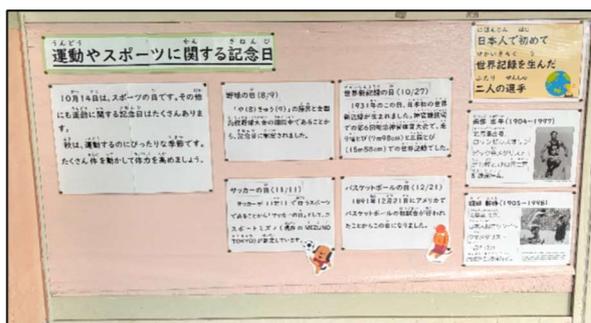


図3 運動に関する校内掲示①



図4 運動に関する校内掲示②

### ③ 【小・中学校の円滑な接続】

- ・一小一中という地域性を生かして、中学校の先生との合同授業を行うなど、内容や児童実態について情報を共有するなど連携を密にしていく。

### ⑤ 【その他】

- ・全員の学習活動への参加を保障するためにも、必要な実験器具の確認・点検を事前に行い、数の不足が起こらないように留意する。
- ・点検時に実験器具の故障に気付いた場合には必ず報告し、環境整備を徹底する。